



私たちは10年後、仙台市を「伊達(DATE)なボッチャのまち」にしたいです！

**D**「Diversity(多様性を)」…性別や年齢、国籍、障害の有無にかかわらず

**A**「Accept(受け入れて)」…スポーツを通じて自分と異なる他者を理解できるように

**T**「Together(一緒に)」…行政と地域団体が協働して

**E**「Enjoy(楽しむ!)」…まちなかの道路や公園でパラスポーツを楽しめる場を創出！

東京2020オリパラ開催決定を受け、政府は「ユニバーサルデザイン2020行動計画」を策定

**共生社会の実現を目指す**

スポーツ庁も「スポーツを軸とした共生社会の実現」を今後の政策目標としている

共生社会の実現には、異なる他者への理解が大切

そのきっかけとしてパラスポーツに親しむことが重要！



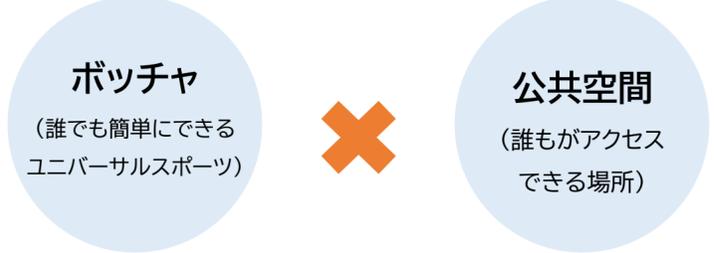
「一般成人のうち障害者スポーツをしたことがない」

**91.2%**

仙台市スポーツに関する意識調査より(R2時点)

スポーツ庁は、「障害者スポーツを実施したことのある者の割合を20%にする」ことを目指している

私たちは、仙台市を誰もが気軽にパラスポーツを楽しめるまちにするために、



「ボッチャ」と「公共空間」を活かした二つの提案をします！



(昨年青葉通で実施したボッチャ体験会の様子)

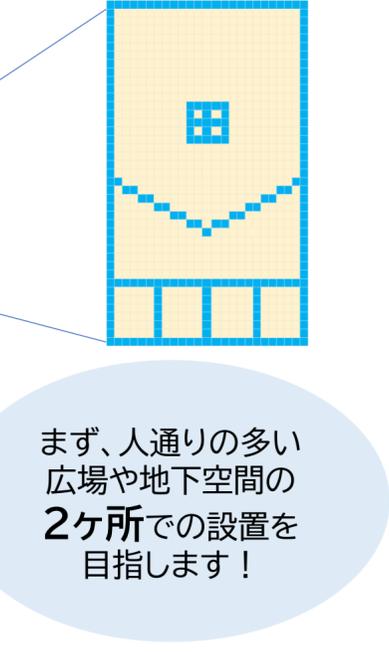
【提案①】  
現在、勾当台公園市民広場に敷設されているタイルをボッチャコートのかたちに敷く

タイルを活用したコートを常設することで、設置費や維持費の削減が期待でき、場所を占有することはありません

公道や庁舎等を改修するタイミングで敷設します



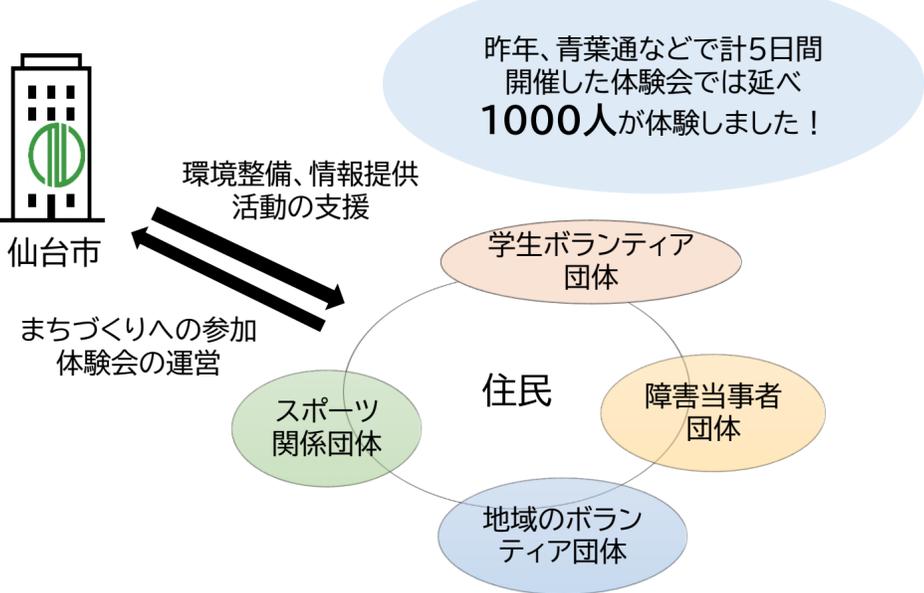
↑敷設場所案



【提案②】  
提案①のコートを利用した「まちなかボッチャ体験会」の定期実施

今ある社会資源(ネットワークや都市環境)を活用し、多様なステークホルダーを巻き込んでボッチャを楽しめる場を創出します

市民が日常的に気軽にボッチャを楽しむ機会を創出するために私たち学生団体が定期的にボッチャ体験会を企画・運営します



【提案①②から期待される効果】

- まちなかでカジュアルにスポーツが楽しめる！(普段スポーツをする機会が少ない高齢の方や障害のある方も)
- ボッチャをはじめとしたパラスポーツへの関心が高まる！
- 「偶然」通りすぎた多様な人同士の出会いが生まれる！
- 遊びのあるプレイフルなまちになる！

多様な人々の交流を生み、共生社会の実現を目指すために

「ボッチャ×公共空間」で

仙台市をDATEなボッチャのまちに！